

令和2年度 福岡市人権啓発ラジオ番組

こころのオルゴール

私たちがお届けします

2020年12月1日(火)
～2021年2月26日(金)



ハル 中上真亜子 岡澤アキラ こはまもとこ

放送予定

- CROSS FM 2020年12月1日(火)～12月28日(月)
【放送日】 毎週・月曜～金曜 21:15～21:20
- FM FUKUOKA 2021年1月4日(月)～1月29日(金)
【放送日】 毎週・月曜～金曜 22:55～23:00
- CROSS FM 2021年2月1日(月)～2月26日(金)
【放送日】 毎週・月曜～金曜 7:52～7:57

放送後はこちらでも
聞くことができます
(2021年4月～)

福岡市人権啓発センター ホームページ
福岡市人権啓発センター 検索

福岡市人権啓発センター

[福岡市人権啓発センター] 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ8階 TEL/092-717-1237 FAX/092-724-5162
●開館時間/10:00～21:00(土曜日と開館日の日曜日は17:30まで) ●休館日/第二・第四日曜日、祝・休日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)

ココロンセンター ライブラリー

人権問題に関する書籍、まんが、絵本、DVDを入荷しました。貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

新刊紹介



明日の子供たち 著者:有川 浩 発行所:幻冬舎

児童養護施設で暮らす一人の少女が「世の中の人にもっと児童養護施設のことを正しく知ってほしい。」「私たちはかわいそうではない。」という思いを著者に出した手紙がきっかけとなり、取材を重ねて生まれた長篇小説。施設で働き始めた青年と先輩職員たち、力強く歩き出そうとする子供たちの姿に引き込まれます。今まであまり知らなかった児童養護施設への見方が大きく変わります。

研修等にも使えるおすすめのDVDを紹介します。

おすすめDVD



サラマット ～あなたの言葉で～(36分)

企画:兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会 制作:東映株式会社 ※字幕副音声付き

テーマは「SNS時代における外国人の人権」。職場で共に働くようになったフィリピンの若者を面倒な存在として偏見で見えてしまう主人公。しかし、対立や交流を通して、彼女は新たな視点に気がつき、「違い」は様々な問題解決の糸口になることを学んでいきます。「サラマット」とはフィリピン語で「ありがとう」の意味。「相手の大事なものを大事にする」ことの大切さを感じることができる人権啓発ドラマです。

「ココロンセンターだより」No.82 発行:令和2年12月 福岡市人権啓発センター
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロンセンター 福岡 検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

法務省委託事業

令和2年12月(冬季号) No.82 福岡市人権啓発センター

CONTENTS「主な内容」

- ココロンセミナー 1P
- 人権について学ぶ楽しさを伝えたい 2P
- 人権尊重週間のポスターを掲示します・人権啓発推進指導員のコーナー 3P
- こころのオルゴール、新着図書・おすすめDVDの紹介 4P



ココロンセミナー

考えてみませんか? あなたの人権 わたしの人権

ココロンセンターでは、人権問題を身近に捉えていただくための講座を年6回開催しています。今回は、令和2年度後期の講座をご案内します。あなたの身の回りにおける「人権」について学んでみませんか?

スケジュール

第4回 1/30(土) 14:00～16:00

会場:福岡市健康づくりサポートセンター「あいれふ」10階 講堂

【テーマ】支援は始縁!～子どもを支えるために、つながろう～

社会福祉法人甘木山学園 さかくち あきお
子ども家庭支援センター あまぎやま センター長 坂口 明夫 さん



第5回 2/20(土) 14:00～16:00

会場:福岡市健康づくりサポートセンター「あいれふ」10階 講堂

【テーマ】私からはじめる 私たちの多様性社会

公益財団法人 とよなか国際交流協会 職員 みき ゆきみ
三木 幸美 さん



第6回 3/27(土) 14:00～16:00

会場:福岡市健康づくりサポートセンター「あいれふ」10階 講堂

【テーマ】子どもの性同一性障害に向き合う～成長を見守り支えるために～

一般社団法人gid.jp日本性同一性障害と共に生きる人々の会 にしの あき
代表理事(臨床心理士/公認心理師/心理学博士) 西野 明樹 さん



申込方法

福岡市人権啓発センターホームページ、メール、ファックス、葉書で、①受講希望回、②住所、③氏名、④電話番号、⑤ファックス番号を記載のうえ、お申込みください。先着順に受け付けます。

※会場では、必ず「マスク」を着用してください。

申込み・問合わせ先

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ8階 福岡市人権啓発センター ココロンセミナー担当
TEL 092-717-1237 FAX 092-724-5162 Eメール jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

人権について学ぶ楽しさを伝えたい

草ヶ江校区人権尊重推進協議会は、平成8年に設立されました。この数年は毎年活動テーマを設定し、様々な人権問題について、研修会や講演会、啓発活動を行ってきました。最近の草ヶ江校区は、九州大学跡地に司法関連の施設やマンションが建設され、外国人も含めて新しい住民も増え、ここ数年大きく変容しています。

「人権という重いイメージを抱きがちだが、人権について考え、学ぶことは楽しいことだ、人尊協は楽しく活動している団体だということを地域の皆さんに知って欲しい。そのために若い人、高齢者、男性、女性、外国人などいろいろな立場の声を肯定的に受け入れ、活動に反映していく組織でありたい。」という願いをもって活動しています。

昨年度は、「人に優しいまち IN 六本松」をテーマに、障がい者、外国人、子どもの人権について学びました。即興音楽を障がいのある方と一緒に楽しんだり、彫刻を視覚に頼らず手で触れて鑑賞する体験をしたり、韓国とベトナムの料理作りを通して留学生と交流したりと、座学だけでなく体験を通して楽しく人権について学びました。また地域の福祉施設「ひまわりパーク六本松」や城西中学校と連携し、地域の人材や施設の協力を得ながら進めることもできました。広報紙「わかさ」では、最近よくみかけるようになったSDGs(エス・ディー・ジー・ズ)についての特集を組みました。SDGsが、国連が2030年までに達成を目指す世界共通の目標であることを紹介し、「小さいアクションでもいい、それを習慣にして積み重ねていきましょう。」と呼びかけました。

今年度は、昨年度の広報紙での呼びかけを受け、活動テーマを「SDGsを深く学ぼう」としました。年度当初、コロナの流行でなかなか思うように活動ができませんでしたが、7月には運営委員の弁護士さんを中心に「楽しく学ぼうSDGs～きっと見つかる！私たち草ヶ江校区の具体的プラン！～」という研修をしました。感染症予防のためグループワークが十分にできなかったのは残念でしたが、SDGsを達成するために自分は何ができるのかを楽しく考えることができました。また8月には、ユネスコスクール(SDGsの実践校)に認定されている城西中学校の見学を行い、片山校長先生から説明を受けました。中学生が自分達で防災案を作成していることや、公民館が協力して

9名のリーダー それぞれの持ち味を活かして



いる「あかちゃん抱っこ」の授業もSDGsに関係している実践だということを知りました。

まだ例年と同じような活動はできませんが、今できる活動を無理なく進めています。

これから取り組みたいことの一つは、草ヶ江校区人尊協の愛称とロゴをつくることです。作成にあたっては、地域の皆さんと一緒に知恵と力を出し合って、一層親しまれる人尊協を目指したいと思います。

人権尊重週間のポスターを掲示します

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、「令和2年度 人権尊重作品募集」が中止になったため、昨年度の作品から今年度の「人権尊重週間ポスター」及び「人権尊重週間標語」の選定を行いました。

12月4日(金)から10日(木)まで市の関係機関等で人権尊重週間のポスターを掲示します。

人権尊重週間標語

消せないよ 書き込む前に 考えて

令和元年度福岡市人権尊重週間応募作品
福岡市立博多中学校3年
しおや さつき
塩谷 皐月さんの作品

人権尊重週間ポスター



令和元年度福岡市人権尊重週間応募作品
福岡市立当仁中学校1年
にしむら さあや
西村 紗彩さんの作品

人権啓発推進指導員のコーナー

わたしのことは、 最初にわたしに聞いて下さい

母は高齢になり、物忘れも増え、会話にも時間がかかるようになった。そんな母と靴を買いに行った時のこと。

お店の人は、試しに履いた靴に触りながら、母の顔を見て、「どうですか？ここきつくありませんか？」「ここはどうですか？」と何度も丁寧に声をかけてくれた。「こちらの靴も履いてみましょう。」と、何足か履き比べもさせてくれた。時間はかかったが、母の足に合った靴を購入することができた。私は、母としっかり向き合ってくれた店員さんの態度をとってもうれしく思った。考えてみれば、靴が足に合っているかどうかは、母にはわからないこと。だから店員さんは、母に丁寧に確認をした。店員さんの態度は当たり前なことなのかもしれない。しかし、日常生活では、母ではなく私が代わりに答えてしまう場面も多い。病院でも、医者の質問に付き添う私が答えてしまうことも。体調は本人にはわからないはずなのに…。本人にはわからないことを、私が良かれとあるいは仕方ないと思って、わかったかのように物事を進めてしまうことが増えてしまったように思う。

認知症当事者の方々が作成されたガイドブックの中に、「わたしに関することは、どんなことでも最初にわたしに聞いて下さい。わたしのことを、わたしを抜きに決めないでください。」という言葉があった。母も同じような気持ちでいるのかもしれない。

(岩村)

アンコンシャスバイアス

知らず知らずのうちに次のような発言をしてしまったことはありませんか？「上司より先に部下が帰るのは失礼。」「上司は部下よりも優秀でなければならない。」人は誰でも無意識の思い込みや過去の経験からくる「偏ったものの見方」を持っています。そのため、何気ない一言や良かれと思って発した言葉が相手を傷つけてしまうことがあります。こうした「無意識の思い込みや偏見」のことを「アンコンシャスバイアス」と言います。

アンコンシャスバイアスは日常にあふれていて、誰にでもあるものです。ただ、あることそのものが悪いわけではありません。問題なのは、気づかないうちに「決めつけ」たり「押しつけ」たりしてしまうことです。自分のアンコンシャスバイアスが周囲にどのような影響を与えているのか、思い込みに基づく言動が他者に対してよくない影響を与えていないか、それに気づくことが重要です。

そのために、1日または過去を振り返って、思わず感情的になってしまった出来事、良かれと思ってとった言動に対して周囲の反応が思わしくなかったことなどを思い出すことです。

自分のアンコンシャスバイアスに気づいたら、どのようにすれば良かったのか、どのような表現で相手に伝えるのかを振り返って考え、次の行動に活かせるといいですね。

(久保)